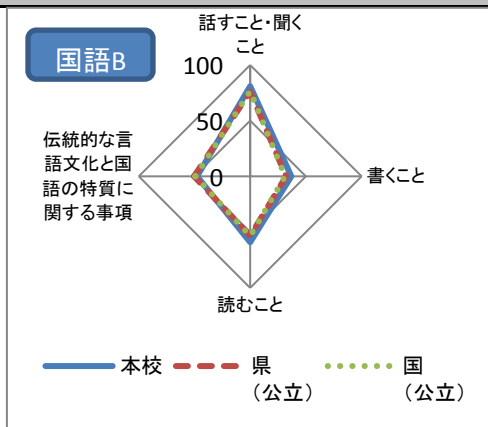
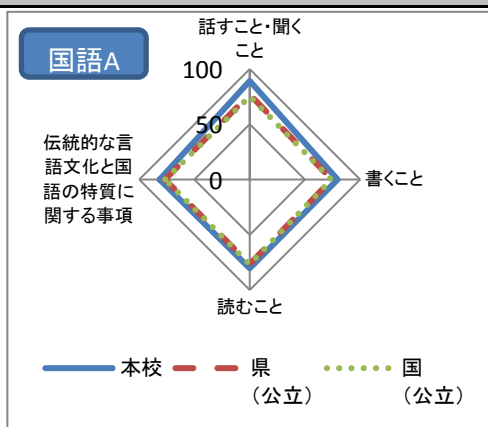


平成30年度 指導方法等の改善計画について【国語】

海田町立海田西 中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(A本校82%, 県76%, 国76.1%)(日本校66%, 県61%, 国61.2%) **本年度の結果について**



概ね県平均を上回り、力をつけてきている。家庭学習ノートや西中検定、NIEでの取組など学校全体での取組となっていることが結果にもつながった。また、ビブリアバトルや新聞への投稿チャレンジなど、相手意識や目的意識をもって表現する機会を設けることで、複数の資料を読み、工夫して伝える姿勢が身につけてきている。しかしながら、国語Aでは慣用句を選ぶ問題(8三エ20.0%)や、主語を補い条件を満たして適切な文を書く問題(8四247.7%), 図に示された情報を文章と結びつける問題(5二47.7%)に課題があった。国語Bではグラフと文章とを結びつける問題(1一44.6%)や、書かれている情報を整理し、読み取る問題(1三26.2%、3三47.7%)に課題が見られる。これまでの取組の質の向上を図ると共に、HR学習や課題等で新聞や資料を読んで要約したり、意見を述べたりするなど、語彙力・読解力・表現力を身につける新たな取組も必要であると考え。引き続き、国語の知識が実の場でいかされる実感を伴う授業や単元、振り返りを行っていきたい。

重点課題
【課題1】 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること。(国語A5二…47.7%)また、グラフや図と文章との関係を考えながら内容を捉えること。(国語B1一…44.6%)
【課題2】 目的に応じて資料を読み、内容を整理して書くこと。(国語B1三…26.2%)また、その際に文の成分や構成などが適切か推敲すること。(国語A8四2…47.7%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
新聞などに触れる機会を設け、語彙力(分からない言葉を調べたり、文脈から想像したりする)や、読解力(あらすじや要旨をつかむ)を磨く。文章以外のグラフや図などを読み取ることも行う。	情報を整理しながら読む!
新聞などに触れる機会を設け、要約したり、複数の資料を関連させたり、比較したりして自分の意見を表現する。その際、文の成分や構成などを考えて適切な文を推敲させる。	目的に応じて書く!

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標

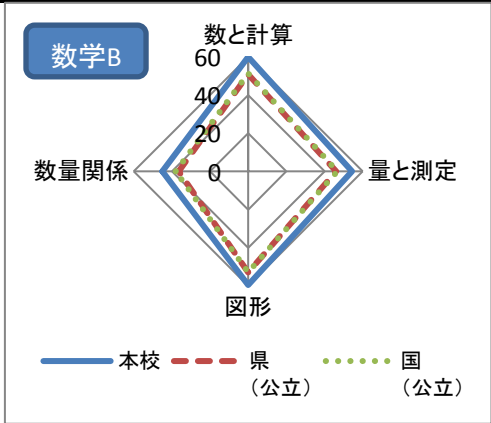
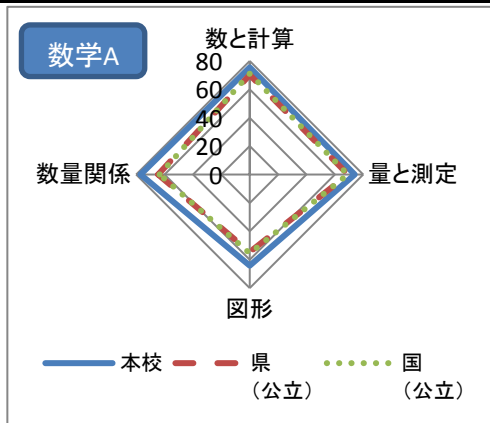
県平均+5ポイント以上

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	3年中間テスト		2・3年期末テスト		2年学年末テスト	2年全国プレテスト	
目標値	60%		2年50%, 3年70%		60%	65%	
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	3年中間テスト		2・3年期末テスト		2年学年末テスト	2年全国プレテスト	
目標値	55%		2年50%, 3年65%		55%	60%	
実施後数値							

平成30年度 指導方法等の改善計画について【数学】

海田町立海田西 中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(A本校73%, 県 66%, 国 66.1%) (B本校 54%, 県 46%, 国 46.9%) **本年度の結果について**



A問題では、全体の通過率は73%であり、全国平均66.1%を7ポイント上回った。どの領域においても全国平均を5ポイント以上上回っており、基礎的・基本的な知識・理解の定着が図られてると考えられる。しかし、大問4, 5の図形に関する問題の通過率が県と全国の平均を下回った。図形のことばの意味や性質の理解に課題が見られる。

B問題では、全体の通過率は54%であり、全国平均46.9%を7ポイント上回った。記述式の問題では全国平均を10ポイント上回った。その中で、理由を説明しながら説明をする問題の正答率が高かった。方法を説明する問題の通過率が低かった。必要な情報の選択はできているが、それをどのように活用するかを説明するこ

重点課題
【課題1】 図形のことばの意味や性質の理解に課題がある。
【課題2】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
図形の名称や性質を覚えさせるだけでなく、図形の実物进行操作する時間をつくり、図形の性質を深く考える指導の工夫をしていく。	図形の指導工夫を協議しよう
文章問題や関数のグラフの読み取りの発展問題を授業に取り入れながら、必要な情報を活用する力を伸ばしていく。	グラフの活用問題を取り入れよう

平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標
A問題 78%
B問題 60%

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法					3学年・定期試験	1, 2学年・定期試験	全国学力・学習状況調査
目標値					75%	75%	80%
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法					3学年・定期試験	1, 2学年・定期試験	全国学力・学習状況調査
目標値					20%	20%	30%
実施後数値							

平成30年度 指導方法等の改善計画について【理科】

海田町立海田西 中学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率(本校 67%, 県 66%, 国 66.1%)	本年度の結果について
<p>理科</p> <p>物質 80 60 40 20 0</p> <p>地球 エネルギー</p> <p>生命</p> <p>— 本校 — 県 (公立) - - - 国 (公立)</p>	<p>本校の正答率は67%であり、全国平均・県平均を少し上回っている。特に「活用」に関する問題においては、全国平均・県平均を5ポイント以上上回っている。広島版「学びの変革」アクションプランを意識した授業改善により、課題発見解決型の授業を仕組むことにより、活用力が少しずつ定着してきていると考えられる。また、実験・観察を行う際のレポート作成を丁寧に指導したことにより、実験結果から読みとれることがある程度確実に指摘できるようになってきている。一方、「知識」に関する問題については、全国平均・県平均を少し下回っており、「基礎・基本」のより確実な定着が課題であることがわかる。5(1)の神経系の伝達経路の「感覚神経」を答える問題が、全問題の中で最も正答率が低く、基本的な「理科学</p>

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
<p>【課題1】 基礎的な理科学用語の定着に課題がある。 5(1) 神経系の伝達経路を答える問題(本校10.8%, 県平均55.1%, 全国平均57.2%)</p> <p>【課題2】 科学的に探究する場面で、問題解決の知識・技能に課題がある。 9(2) 植物を入れた容器の中の湿度上昇の原因を指摘する問題(本校12.3%, 県平均19.4%, 全国平均19.3%)</p>	<p>重要な理科学用語の定着がはかれるようにノートのとり方の指導と徹底的に行くと同時に、板書の工夫を行う。</p> <p>観察・実験を行う際に、実験計画から実際に立てるなどの指導を行い、探求の過程を重要視した指導を行う。</p>	<p>板書をカラフルに！</p> <p>「学びの変革」を常に意識した授業を！</p>

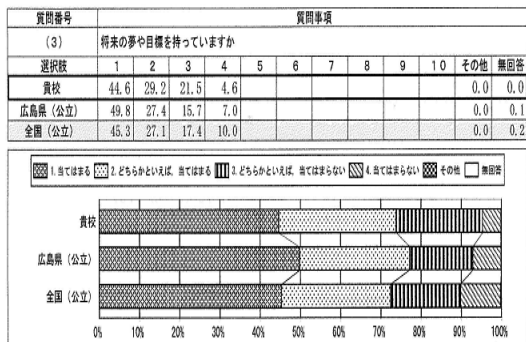
平成31年度 全国学力・学習状況調査 数値目標								
県平均+5ポイント以上	【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
	学年・方法	3年・中間		2・3年期末テスト		2年学年末テスト	2年全国プレテスト	
	目標値	65		65		70	70	
	実施後数値							
	【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
	学年・方法	3年・中間		2・3年期末テスト		2年学年末テスト	2年全国プレテスト	
	目標値	60		60		60	60	
	実施後数値							

平成30年度 指導方法等の改善計画について【質問紙】

海田町立海田西 中学校

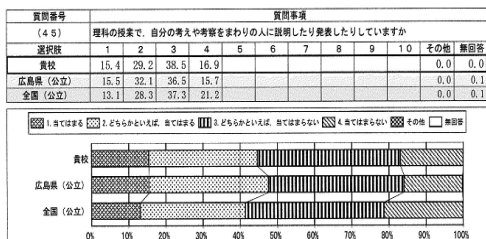
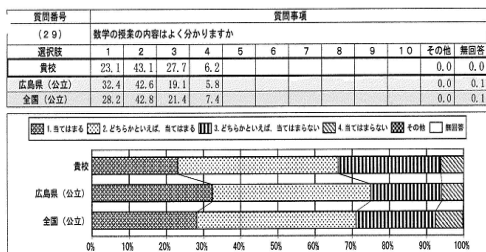
(全国学力・学習状況調査 質問紙)

(1)生活・学習



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
将来の夢や目標を持っていますか。(肯定的評価・74.8%)が、県平均・全国平均を下回っている。	全学年を通して、キャリア教育の視点に立った取組を行っていく。	全学年	85%	3学期末にアンケートを実施する。	3学期末		

(2)教科



	児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語								
算数・数学	数学の授業の内容はよく分かりますか。(肯定的評価・66.2%)が他の質問事項と比較して低く、全国平均と広島県平均を下回っている。	放課後のHR学習の時間での個別指導や、長期休業中の補充学習の充実を図る。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、家庭学習の課題や授業での反復学習の時間を作っていく。	3	70%	2,3学期末に授業アンケートを実施する。	3学期末(2月)		
理科	理科の授業で、自分の考えや考察を周りの人に説明したり発表したりしていますか。(肯定的評価・44.6%)が全国平均は上回っているが、県平均を下回っている。	実験結果や、実験方法をICT機器などを用いてプレゼンテーションする取組を数多く行っていく。	3	60%	2学期末にアンケートを実施する。	2学期末		